

# 名古屋—大阪、空白 18 年のナゾ

小野宗行

リニア新幹線の計画は謎や疑問であふれている。「JR東海一社でやれるのか」、「需要予測は多すぎないか」、「トンネル事故が起きたら?」、「電磁波や磁力線の影響は」、「電気を食いすぎないか」等々。その中で一つ毛色の変った謎がある。30年以上先、しかも名古屋におかれること18年というのんびりした大阪開業スケジュールである。

JRによると、まず名古屋まで通し、ひと儲けして財政を立て直してから西に伸ばすと、そうなるのだという。しかし地盤沈下の激しい大阪圏にとっては18年の空白は致命的。しかも中部圏の人には悪いが、東京—名古屋だけで儲かるなどあり得ないのではないか。なのに、なぜか「早く通せ」の声が大きくなるらないのだ。

## 責任転嫁めいた答申……

計画を検討した国土交通省の中央新幹線小委員会でも当然話題となった。「もっと早くしたいというモチベーションを大阪圏自身あまり持っていないんです」と嘆く委員長に対し、ゲストで呼ばれた有識者は「大阪のことを心配しているのは東京」、「本来大阪ってそういうところかもしれない」、それでしたたかにいきているわけ。大阪は自分たちの手を汚さず、東京が助け船を出すのを待とうとしている、ということだろう。

小委員会がその後公表した「中間とりまとめ」では、大阪の早期開業は「重要な課題」で、「それによって初めてリニア新幹線の機能を十分発揮できる」としながら、JR東海案を結局は認めてしまった。そして「継続的に具体策を検討すべきである」とゲタを預けた。同時開業できないのはまるで大阪の責任であるかのように。半年後に出した答申でもこの姿勢は変わらず、そのまま国交省のゴーサインがかかった。

## 橋下・大阪市長が動く?……

そこに来て昨年末、大阪市の橋本徹市長が記者会見で見解を聞かれ、歯切れよく答えた。「名古屋・大阪同時開業は喫緊の課題だ」、「国力増強の起爆剤になる」、「税金を使っても国家課題でやれ」、「JR東海に全部まかせるのはおかしい」。目新しい意見ではないが、安倍政権の国家強靱化計画にひっかけたところが橋下氏らしい。

小委員会のメンバーは、発信力の強い橋下氏が表に出てきたことで、ひそかに拍手をしているかもしれない。しかし拍手はまだ早い。実は、我々も別の意味で歓迎したいところだ。国が乗り出すにしても、民間から融資を募るにしても、いずれも金を出す側にとっては「JRにお任せ」とはまいらない。JR側もこれまで我々に見せてきた木で鼻をくくったような対応はできないだろう。精査する過程で、最初に述べたような問題点がはっきり浮かび上がるからだ。

その後橋下市長からの発進はないものの、彼の性格からして黙り続けるわけがない。事故の責任さえ負わされかねないふざけた実態を知った大阪人が、「そんなけったいなものやったら、わてらリニアなんかいらん」と言い出してくらたらしめたものだ。



橋下・大阪市長

(麻生の会会員)